



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学歴別，産業別にみた青年の生活態度の推移：文部省「壮丁思想調査」（昭和6年）との対比
Author(s)	高山，武志
Citation	北海道大學教育學部紀要，15，59-86
Issue Date	1968-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29041
Type	departmental bulletin paper
File Information	15_P59-86.pdf



学歴別、産業別にみた青年の生活態度の推移

—文部省「壮丁思想調査」(昭和6年)との対比—

高 山 武 志

概 要

「壮丁思想調査」(文部省昭和6年)を利用して、戦前戦後の青年の生活態度の比較検討をした研究はあるが、学歴別、産業別に対比したものはまだない。

この報告は、北海道で「壮丁思想調査」と同じ内容について調査を実施し、その結果を戦前と比較、分析するとともに、戦前の貴重な資料を継続して提供する意図をもっている。

なお、現時点における男女比較も合わせておこなっている。

目 次

第1章 目的と方法

第2章 学歴別対比

- 1 問1「くらし方」についての学歴別対比
- 2 問2「代議士選挙の基準」についての学歴別対比

第3章 産業別対比

- 1 問1「くらし方」についての産業別対比
- 2 問2「代議士選挙の基準」についての産業別対比

第4章 男女対比

- 1 学歴別男女対比
- 2 産業別男女対比

要 約

後 記

附 資 料

第1章 目的と方法

戦前と戦後の青年達の生活態度や生活意識のちがいに
ついて多くのことがいわれているが、それを数量的デー
タとしてしめたものは少ない。その理由として、青年
に関する社会心理的な実証研究資料が戦前にはほとんどな
かったことがあげられる。この種の数少ない貴重なデー
タとして、文部省社会教育局の「壮丁思想調査」(昭和
6年)、「壮丁思想特別調査」(昭和15年)がある。

戦後、上記資料を利用し戦前、戦後の青年の生活態度
についていくつかの比較研究がおこなわれたが、そのう
ち数量的な接近方法をとっているものとして統計数理研
究所国民性調査委員会によるものがある⁽¹⁾。

同委員会の研究は、「日本人の国民性」についておこ
なわれたもので、1953年と1958年に調査が実施されてい
る。その研究の一環として、上記戦前2調査の結果との
比較研究がとりあげられている。

壮丁の思想に関する質問事項は5項目より構成され、
昭和15年の「壮丁思想調査特別調査」では1項目につい
て選択肢が一つ追加されたが、その他は2調査とも共通
の内容である。この質問事項のうち、国民性調査委員会
の研究では、「国民性」に唯一関連あるものとして、「く
らし方」についての質問事項一つだけをとりあげて分析
の対象としている。

また、戦前との比較のためにとり出された20～24歳年
齢層のサンプル数は1953年調査で198人、1958年調査で
62人となっている⁽²⁾。サンプル数が比較的少数のため
に、同上年齢層について戦前の調査結果にあった学歴
別、産業別集計がおこなわれていない。したがって学歴
別、産業別の戦前、戦後の対比がない。

学歴や従事産業(職業環境)は人々の生活態度や生活
意識の形成に影響を及ぼす重要要因であることはいうま
でもない。その結果、問題の所在を具体的にするため、
青年のもっている学歴や職業環境の特性にしたがって、

青年の生活態度や生活意識を考察する必要があるとおもわれる。

この研究では、以上のような視点にもとづいて、現時点の調査対象を学歴別、産業別にグルーピングし、戦前戦後で相対している学歴あるいは産業別に青年の考え方の対比をしようとしている。

戦前の対比資料として、昭和6年の「壮丁思想調査」（以下昭和6年調査略）を使用した。昭和15年調査を用いなかった理由は、戦前、戦後の対比をする場合、現在からより離れた時点のものを採用した方が傾向の相異が明確に出ると考えたことによる。

昭和6年調査は、2部よりなり、第1部は思想傾向、第2部は公民知識に関するもので、ここでは、第1部の質問事項から2つを選んで分析の対象とした^(*)。（昭和6年調査の内容については巻末附資料1参照）

昭和6年調査の質問事項は、(1)「人のくらし方」、(2)「代議士選挙の基準」、(3)「市町村自治」、(4)「労資関係」、(5)「納税の理由」にそれぞれ関連し、(1)は自己対自己関係で完結する性格のものであるが、(3)以下はいずれも自己対社会の関係に属するものである。このうち、(1)と(2)について分析をおこなった。

質問の内容は、いずれも一般的に通用する性質のもので、質問に対する答は日常的レベルにおける意見ないし態度と考えられる。したがって、この研究でいう生活態度も上記の段階にあるものとして判断している^(*)。

「昭和6年調査」は、昭和5年5月24日から7月13日にわたって実施され、調査地域は、都会、農村、漁村、工場、鉱山、争議地域を含む3市18町97村で、調査壮丁数は8,561人となっている。

今回の調査は、昭和42年6月から11月にかけて実施され、調査地域は、北海道の下記10市、25町村である。

（昭和42年調査調査対照地域）

総合都市）札幌市、小樽市、旭川市、深川市、苫小

牧市、岩見沢市、留萌市

炭鉱都市）夕張市、赤平市

農村）当別町、長沼町、池田町、浦河町、三石町、

浦臼町、小清水町、南幌町、新十津川町、神楽町、

静内町、新冠町、伊達町、栗山町、由仁町、東鷹

栖町、和寒町、留寿都町、共和村、浜益村、門別

町

漁村）奥尻町、鹿部村、利尻町、厚岸町

昭和6年調査では、徴兵検査場において第1部、第2部合わせて30分の時間で、自己記入式をとって調査を実施している。この方式に準じて、42年調査も、上記各地域の学校、青年学級、成人学級、農業後継者養成機関、

その他の各種集会を利用し、また、企業では調査対象を1ヶ所に集中し、時間を限定して自己記入式で調査をおこなった。

（調査対象人員）

男子 2,617名

女子 1,936名

計 4,553名

学歴別、産業別に集計し比較対照する場合、サンプル数が相当必要なため、分析対象として、19～29歳までの年齢層をとった。

昭和6年調査と42年調査の19～29歳（男子）の年齢別分布状況は下表のごとくである。これによると、42年調査では昭和6年より年齢の幅が広いが、19歳以上24歳までの若年層に全体の82.3%が集中しているので昭和6年との比較対照群としてあまり無理はないとおもわれる。

年 齢	昭 和 6 年 調査対象人員	%	昭 和 42 年 調査対象人員	%
19	124*	1.5	312	26.0
20	7,271	84.9	249	20.0
21	877	10.2	143	11.5
22	92	1.1	121	9.7
23	64**	0.7	104	8.3
24	年齢不明 133	1.6	97	7.8
25			53	4.3
26			47	3.8
27			45	3.6
28			36	2.9
29			39	3.1
計	8,561	100.0	1,246	100.0

* 19歳以下を総計した数字である

** 23歳以上を総計したもの

〈注〉

- (1) 統計数理研究所国民性調査委員会「日本人の国民性」（昭和36年至誠堂）
- (2) 前掲書127頁参照
- (3) 昭和6年の調査では、調査方法、問題の選定にあたって東京帝国大学心理学教室の意見を求めている。文部省「壮丁思想調査」（昭和6年）1頁参照
- (4) 香内三郎「青年の生活問題3、生活意識と生活態度」（岩波講座「現代教育学」第16巻、昭和55年岩波書店）86頁参照

第2章 学 歴 別 対 比

戦前、戦後では教育制度がちがうので、厳密な意味で同等の学歴を対置することが不可能なことはいうまでもない。そこで教育年数や教育制度上の位置が類似している高等学校卒業生と新制中学校卒業生、旧制中学校（実業学校を含む）と新制高校卒業生、旧制専門学校以上と新制大学（4年制）以上の在学生および卒業生をそ

学歴別、産業別にみた青年の生活態度の推移

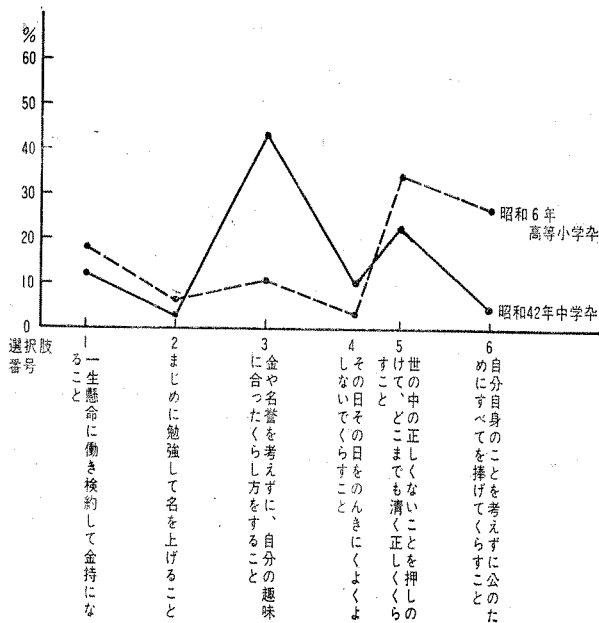


図2-1 問1「くらし方」学歴別選択肢比率分布状況

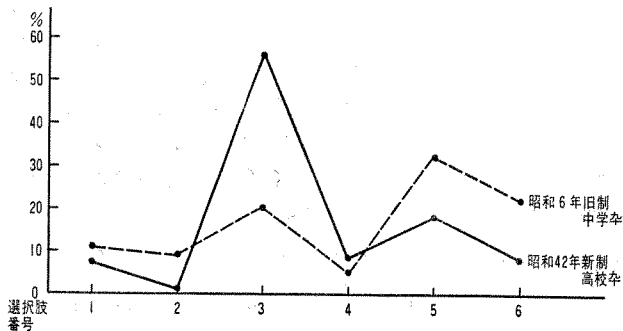


図2-2

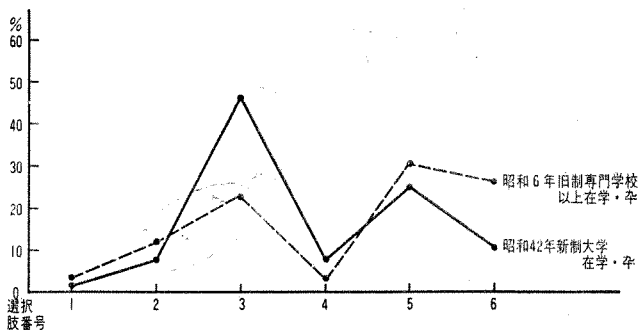


図2-3

れぞれ対置して考察を試みた。

1. 問1「くらし方」についての学歴別対比

各学歴層の対比を通し共通現象としていじめるしいの

は、「金や名誉を考えずに自分の趣味に合ったくらし方をする」という選択肢を選んだものが、戦後、大幅に増加していることである。その他、戦後増加しているのは「その日その日をのんきにくよくよしないでくらすこと」という選択肢である。以上の2選択肢以外は、戦後いずれも減少している。そのうち、「世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと」という選択肢を選ぶものの減少が目立っている。

このような結果は、戦前にくらべて、戦後青年が現実主義的あるいは自己中心的になっているという、しばしば指摘されている事実を裏付けている。

さらに詳細に、戦前、戦後の各選択肢の比率の相異を検討するため、つぎの式により比率差の検定をおこなった。

母集団の比率 P Q

調査対象人員 n m

(母集団からのサンプル数)

各選択肢の比率 p q

P は不明なので、つぎのように推定する。

$$P' = \frac{n p + m q}{n + m}$$

これにより

$$P - q \geq 2 \sqrt{P'(1-P') \left(\frac{1}{n} + \frac{1}{m} \right)} \quad \text{である}$$

ならば、95%信頼度で $P \neq Q$ 、つまり両サンプルの選択肢の各比率に差があるとする。

検定結果をみると、高等小学校と新制中学の間では、すべての選択肢において有意の差がある。

旧制中学と新制高校では、選択肢〔1〕以外はすべて差がある。

旧制専門学校以上と新制大学で有意差のあるのは2選択肢のみで、他の4選択肢には差がない。

戦前、戦後の比較で、各学歴層を通してもっとも変動の大きい選択肢〔3〕の比率差の絶対値は、旧専門学校以上と新制大学のそれがもっとも低い。以上の結果をみると、「くらし方」についての態度は、学歴が高くなると、その変化の度合が少なくなる傾向がうか

がえる。

つぎに、昭和6年、42年の調査時点別に各学歴層相互について選択肢の比率の差の検定をおこなった。(選択

表2-1 問1「くらし方」学歴別比率差の検定結果*

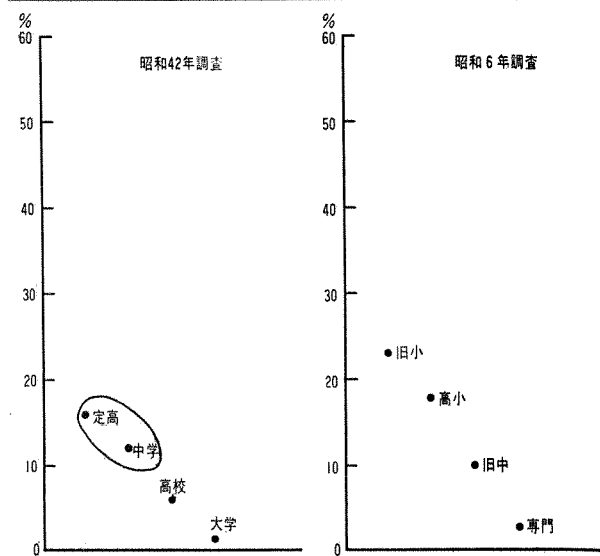
学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
旧制小学校卒業		22.8	8.9	10.1	3.8	31.0	23.4	100** (2,123人)
新制中学校卒業		12.4	2.9	43.7	10.1	23.2	4.8	100 (315人)

* 〓は有意差のあることを意味する。

** 昭和6年調査では、無答をのぞいて%を出しているの、昭和42年調査でも、無答を除外した。

表2-3

学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
高等小学校卒業		18.0	6.3	10.9	3.1	34.6	27.1	100 (2,864人)
新制中学校卒業		12.4	2.9	43.7	10.1	23.2	4.8	100 (315人)



注) 比率差のないものを線で囲んである。
北海道大学紀要第11号黒田孝郎「北海道における学力調査
についての解析」参照。

図2-4 「くらし方」一生懸命に働き儉約して金持になること

肢〔2〕は、戦前、戦後とも比率が低いので考察から除外した。以下同じ)

(1) 選択肢〔1〕「一生懸命に働き儉約して金持になること」の学歴別比率差の検定結果

昭和6年調査では、各学歴間にすべて有意差があり、旧制小学校から学歴が上るにつれてこの選択肢の比率は減少し、学歴が低いほど勤儉的な生活態度をもつものが多くなることをしめしている。

昭和42年調査では、中学校と定時制高校在学者との間に差はないが、定時制高校在学者と高校間には差がある。大学在学者および卒業者の比率は、高校以下の学歴に対して有意差をもって低く

表2-3

学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
旧制中学校卒業		10.6	9.4	20.2	5.1	32.5	22.2	100 (960人)
新制高等学校卒業		7.9	1.3	55.4	8.6	18.2	8.6	100 (465人)

表2-4

学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
旧制専門学校以上	在学者 卒業者	3.4	12.0	23.5	3.9	30.3	26.9	100 (234人)
新制大学	在学者 卒業者	1.6	8.0	46.5	7.5	25.7	10.7	100 (187人)

なっている。このような結果からみると、学歴が低いほど勤儉型のものが多くなっている昭和6年の傾向は、42年でもほぼ同様であるといえよう。

(3) 選択肢〔3〕「金や名誉を考えずに、自分の趣味に合ったくらし方をする」の学歴別比率差の検定結果

昭和6年調査では、旧制小学校、高等小学校、旧制中学校、専門学校以上と学歴が上るにつれて、この選択肢の比率が大きくなっている。検定結果をみても、旧小学校と高等小学校、旧制中学と専門学校以上は明確に別グループとなっている。この結果からすると、戦前においては、学歴の高いものほど、現実主義的あるいは自己中心的なものが多くなる傾向があったといえよう。

これに対して、42年調査では、学歴別に一貫した傾向がみられない。

(4) 選択肢〔4〕「その日その日をのんきに

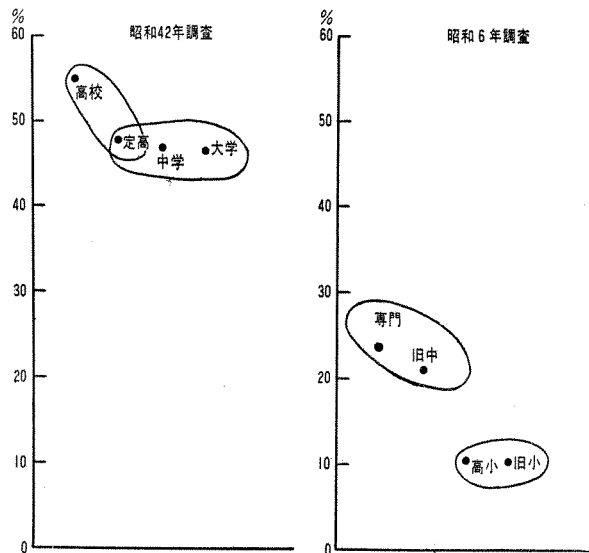


図2-5 「くらし方」金や名誉を考えずに自分の趣味に合ったくらし方をする

学歴別、産業別にみた青年の生活態度の推移

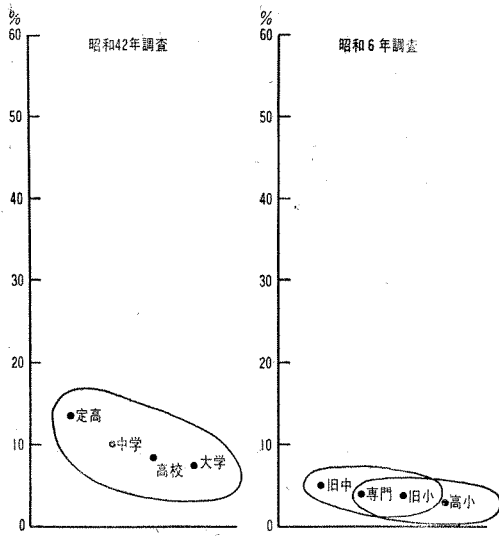
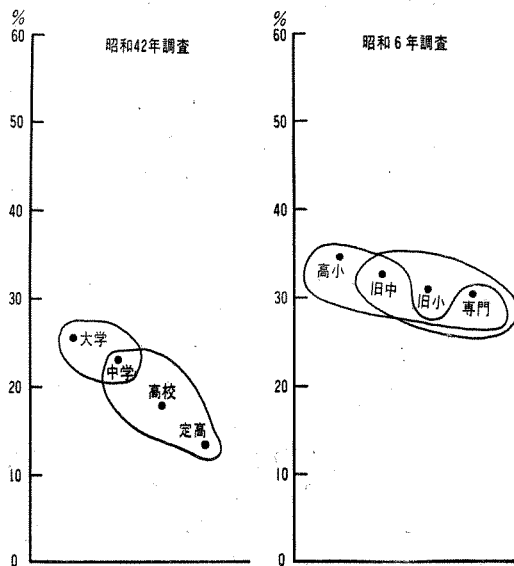


図 2-6 「くらし方」その日その日をのんきに
よくよしなideくらすこと



注) 昭和6年調査で比率差の少ない専門と旧小の間に有意差があり、比率差のより大きい旧中と専門の間に有意差のないのは、旧専門の標本数が他に比して過少なために生じたものである。

図 2-7 「くらし方」世の中の正しくないことを
押しつけてどこまでも清く正しくくらす
こと

よくよしなideくらすこと」の学歴別比率差の検定結果
戦前調査では、各学歴でこの選択肢の比率は低く、戦後調査で、学歴が低いほど選択肢比率が高くなる傾向がややみられるが、有意差のあるものはない。

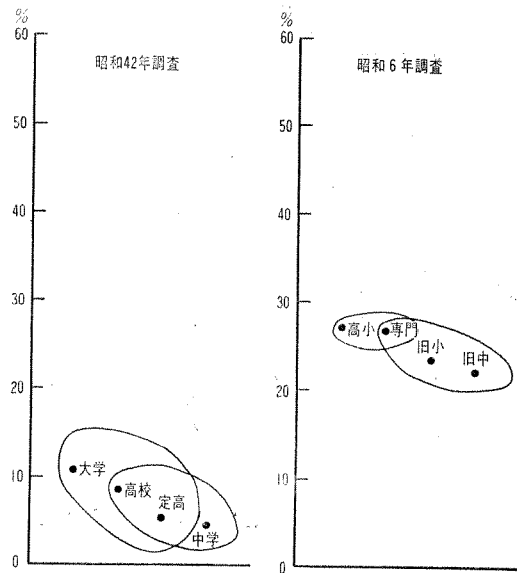


図 2-8 「くらし方」自分一身のことを考えずに
公のためにすべてを捧げてくらすこと

(5) 選択肢〔5〕「世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと」の学歴別比率差の検定結果

昭和6年調査で、差のあるのは旧制小学校と高等小学校間のみで、学歴による差異はあまりない。

昭和42年調査では、大学と中学校の学歴水準の両極端にこの選択肢を選ぶものが多い結果がでている。

(6) 選択肢〔6〕「自分一身のことを考えずに、公のためにすべてを捧げてくらすこと」の学歴別比率差の検定結果

この選択肢は、選択肢〔3〕とともに、戦前、戦後の比率差が大きく、世相の変遷をしめしているが、戦前では高等小学校が旧制中学および小学校に有意をもって比率が高いのみで、学歴水準と比率に一定の傾向がみられない。

戦後は、中学校、定時制高校、高校、大学の順に比率が上昇する傾向をみせている。

2. 「代議士選挙の基準」についての学歴別対比

図をみると、昭和6年の高等小学校卒業では、選択肢〔3〕の「地方のためにつくしている」と、同じく〔4〕の「政治について手腕のあること」を代議士選挙の基準として選んだものが多い。これに対して、昭和42年の新制中学卒業者では、選択肢〔4〕の比率が減少し、選択肢〔3〕の比率が増加している。

旧制中学校と新制高校の比較では、旧制中学校では選択肢〔2〕を選んだものが多いが、新制高校では選択肢

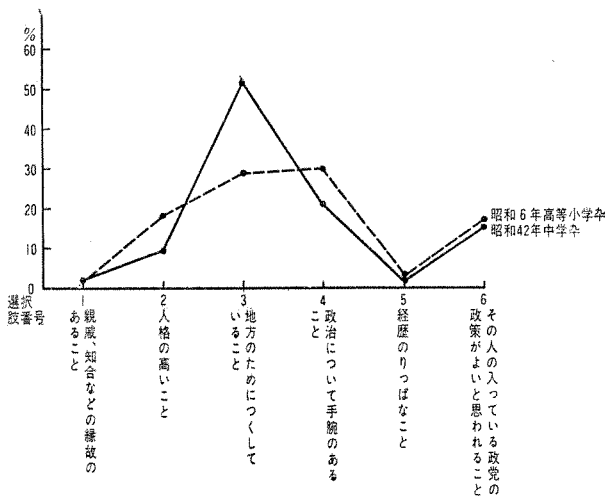


図2-9 問2「代議士選挙の基準」学歴別選択肢分布状況

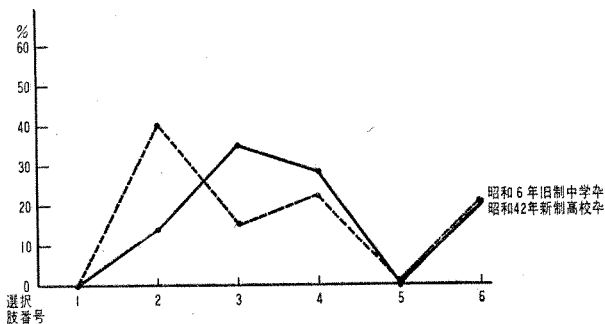


図2-10

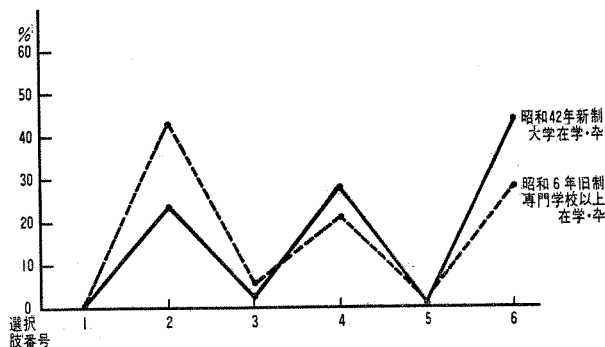


図2-11

〔3〕の比率が多いのがちがっている点である。

旧制専門学校以上と大学では、きわだって選択の集中が移動したものはなく、3つの学歴比較のうちではもつとも類似した傾向をみせている。

表(2-5)―(2-8)は、学歴別各選択肢の比率差検定の結果である。

つぎに、調査時点別の学歴間の各選択肢比率の差の検定結果をみてみよう。(選択肢〔1〕と〔5〕は、戦前、戦後ともに比率が低いので、考察から除外した。以下同じ)

(1) 選択肢〔2〕「人格の高いこと」の学歴別比率差の検定結果

戦前調査における選択肢〔2〕の比率は、旧制小学校、高等小学校、旧制中学校、専門学校以上の順に高くなっている。旧制中学校と専門学校間をはじめ、その他すべての学歴間に有意差があって、学歴が高くなると「人格」を代議士選挙の基準とするものが多くなる傾向がうかがえる。

42年調査では、新制中学校と高等学校間に有意差はないが、大学では新制中学校、高等学校に対して有意をもってこの選択肢の比率が多くなっている。

以上の結果からみると、「人格」をもって代議士選挙の基準とするものが学歴の高いものほど多くなる傾向は、戦前、戦後に共通しているといえそうである。

(2) 選択肢〔3〕「地方のためにつくしていること」の学歴別比率差の検定結果

昭和6年調査では、旧制小学校、高等小学校、旧制中学校、専門学校以上の順に、有意をもって選択肢の比率が減少し、学歴が上昇すると、地方への貢献をもって代議士選挙の基準とするものが減る傾向を明確にしめしている。

昭和42年調査でも、学歴が高くなると、この選択肢の比率が減少し、戦前と同じ傾向をみせている。

(3) 選択肢〔4〕「政治について手腕のあること」の学歴別比率差の検定結果

昭和6年調査では、旧制中学校と専門学校間に有意差はないが、両学歴水準と高等小学校と旧制小学校はそれぞれ有意をもって後者でこの選択肢を選んだものが多くなっている。

この結果によると、戦前では、学歴が高くなると、「政治について手腕のあること」を代議士選挙の基準とするものが少なくなる傾向をややみせている。

昭和42年調査では、新制中学校と高等学校間に有意差があるのみで、学歴との間に一定の傾向をみせていない。

(4) 選択肢〔6〕「その人の入っている政党の政策が

学歴別、産業別にみた青年の生活態度の推移

表 2-5 問 2 「代議士選挙の基準」学歴別比率差の検定結果

学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
旧制小学校卒業		2.8	12.9	55.7	28.4	4.8	15.3	100 (2,129人)
新制中学校卒業		1.3	9.7	51.2	21.3	1.6	15.6	100 (320人)

表 2-6

学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
高等小学校卒業		1.2	18.7	29.0	29.9	5.3	17.8	100 (2,853人)
新制中学校卒業		1.3	9.7	51.2	21.3	1.6	15.0	100 (320人)

表 2-7

学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
旧制中学校卒業		0.3	40.5	15.4	22.8	0.9	20.1	100 (961人)
新制高等学校卒業		0.4	14.1	35.9	28.2	0.4	20.9	100 (468人)

表 2-8

学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
旧制専門学校以上 在学者 卒業生		—	42.9	5.6	21.9	0.9	28.7	100 (233人)
新制大学 在学者 卒業生		0.5	24.0	2.6	28.1	0.5	44.3	100 (192人)

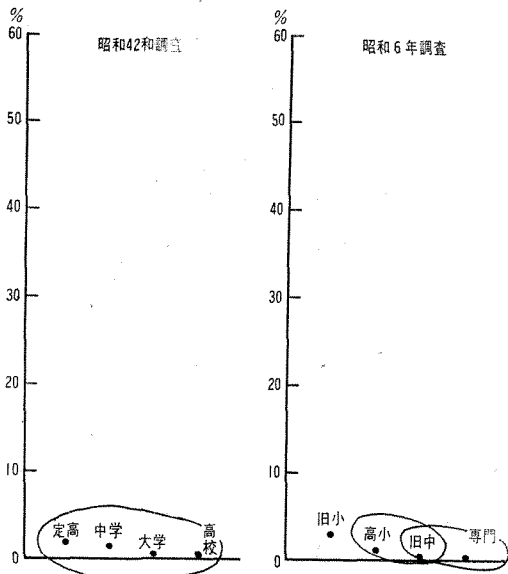


図 2-12 「代議士選挙の基準」親戚知合などの縁故のあること

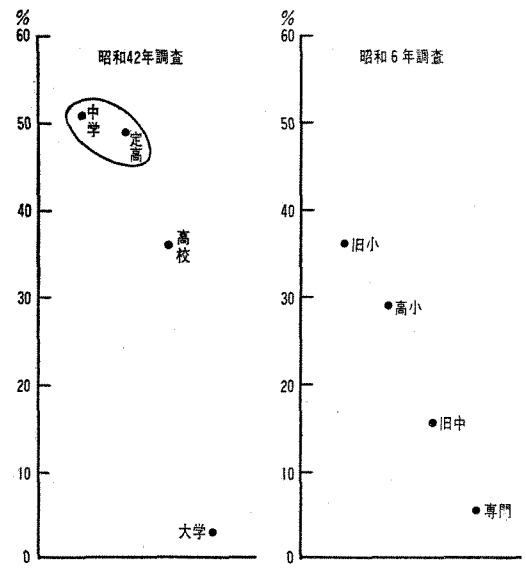


図 2-14 地方のためにつくしていること

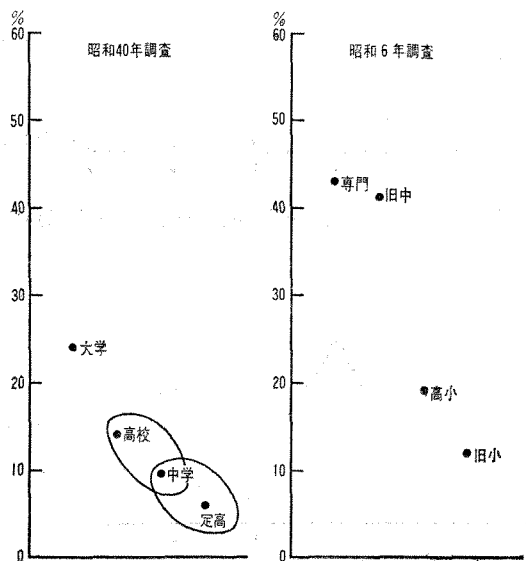


図 2-13 人格の高いこと

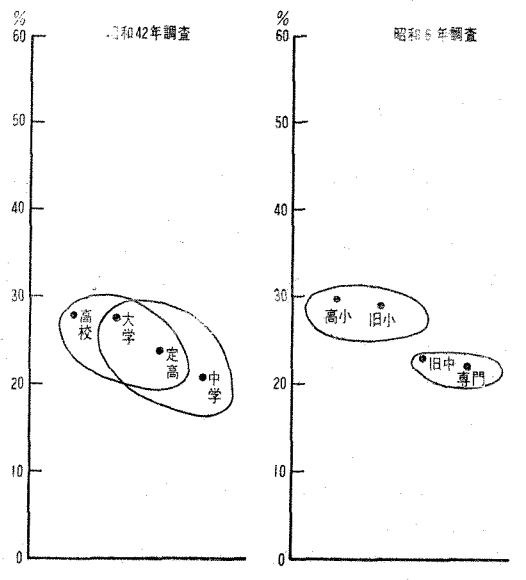


図 2-15 政治について手腕のあること

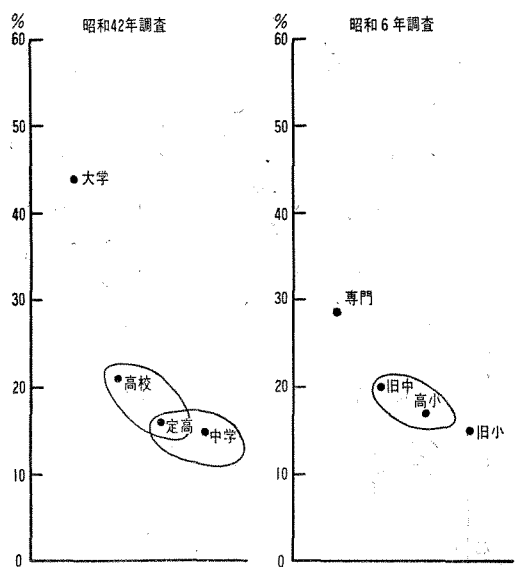


図2-16 その人の入っている政党の政策がよいと思われること

よいと思われること」の学歴別比率差の検定結果

昭和6年調査では、旧制小学校、高等小学校、旧制中学校、専門学校の順に選択肢の比率が高くなっている。旧制中学校と高等小学校の間に有意差はないが、専門学校と旧制小学校は、その他に対して有意差があり、学歴が高くなると、「政策本位」で代議士選挙の基準にするものが多くなる傾向をしめしている。

昭和42年調査でも、学歴が高いほどこの選択肢の比率が高く、戦前、戦後共通した傾向となっている。

第3章 産業別対比

1. 問1「くらし方」についての産業別対比

学歴別対比の場合と同じく、「金や名誉を考えずに自分の趣味に合ったくらし方すること」を選んだものがすべての産業において戦後大幅に増加している。

各選択肢の比率の差の検定結果によると、選択肢「1」の「一生懸命に働き節約して、金持になること」の比率は、商業と公務の他の産業では、有意をもって戦後の方がいずれも低くなっている。戦前においても公務の選択肢比率が5.5%と低く、また戦後の商業のそれが15.8%と高く、ともに戦前、戦後の差

表3-1 問1「くらし方」産業別比率差の検定結果

産業	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
昭和6年	農 業	23.5	8.3	7.0	2.2	32.2	26.9	100 (1,947人)
昭和42年	農 業	9.6	1.4	58.0	7.8	19.7	3.5	100 (512人)

表3-2

産業	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
昭和6年	工 業	16.6	7.7	13.4	3.1	34.9	24.4	100 (2,109人)
昭和42年	工 業	7.5	4.2	45.8	12.6	22.5	7.5	100 (120人)

表3-3

産業	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
昭和6年	商 業	21.2	7.6	12.5	4.1	53.2	21.4	100 (2,079人)
昭和42年	商 業	15.8	3.2	36.8	15.9	21.1	7.4	100 (95人)

表3-4

産業	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
昭和6年	公務及自由業	5.5	17.3	17.6	3.0	28.9	27.7	100 (329人)
昭和42年	公 務	3.6	2.4	44.9	9.6	20.4	19.2	100 (167人)

表3-5

産業	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
昭和6年	鉱 業	19.9	12.1	6.7	3.2	29.8	28.4	100 (282人)
昭和42年	鉱 業	4.7	4.7	50.0	12.5	25.0	3.1	100 (64人)

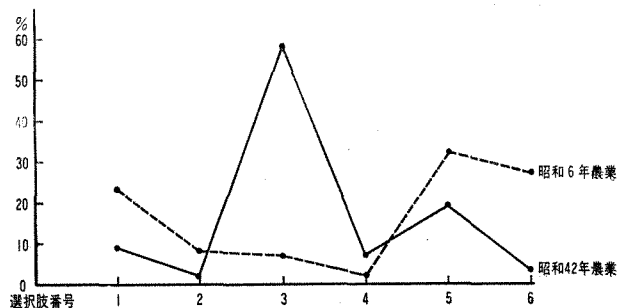


図3-1 「くらし方」産業別選択肢分布状況

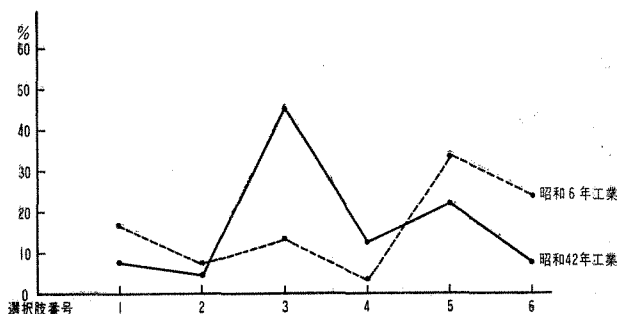


図3-2

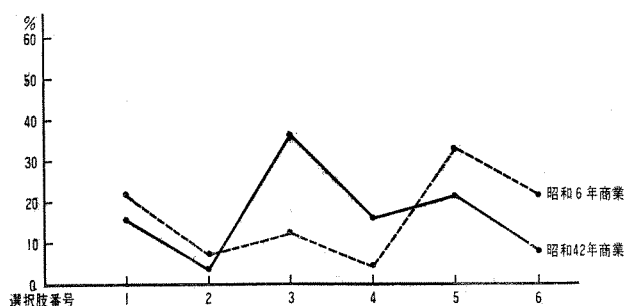


図 3—3

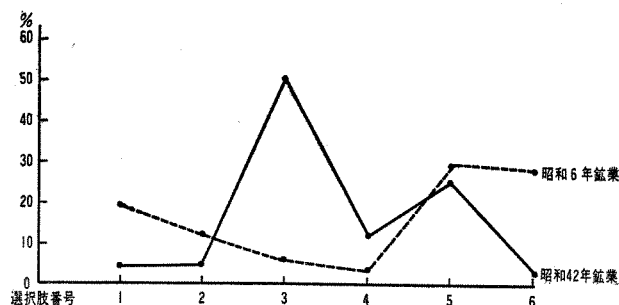


図 3—4

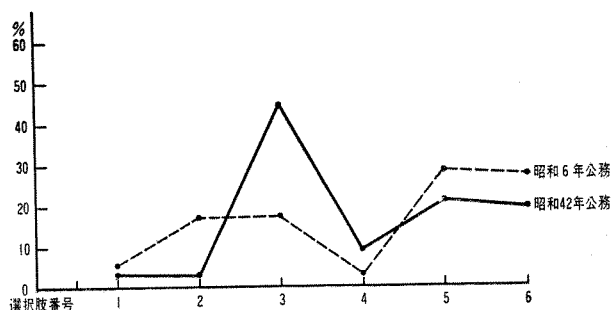


図 3—5

のないのは、公務、商業という産業の特性によるものであろうか。

選択肢〔2〕の「まじめに勉強して名を上げること」は、戦前、公務と鉱業でこの選択肢を選んだものがやや多い程度で、その他では戦前、戦後ともにあまり大きな比率のものはない。

選択肢〔3〕は、上記の通り、全産業で戦後の比率が大幅に増加しているが、とくに農業でその増加がいちじるしいのが目立っている。

選択肢〔4〕の「その日その日ののんきにくよくよしないでくらすこと」の比率は、各産業ともに戦後の

方が大きく、選択肢〔3〕の戦後における比率の増大とともに、戦後青年の現実主義への傾斜を物語っている。

選択肢〔5〕の「世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しくくらすこと」と選択肢〔6〕の「自分一身のことを考えずに、公のためにすべてを捧げてくらすこと」の比率は、戦後全産業において可成りの差で低下しており、世相の変転をしめしているのは学歴別考察の場合と同じである。

調査時点別の産業間の各選択肢比率の差の検定結果はつぎのとおりである。

(1) 選択肢〔1〕「一生懸命に働き倹約して金持になること」の産業間比率差の検定結果

昭和6年調査では、公務、水産、工業、鉱業、商業、農業の順に、この選択肢の比率が多くなり、公務は、すべての他産業に対して有意差をもって低率である。

昭和42年調査では、比率の順位が公務、鉱業、工業、農業、商業となり、有意差のあるものが減少し、全体として分布の幅がせまくなっている。

(2) 選択肢〔3〕「金や名誉を考えずに自分の趣味に合ったくらし方をする」の産業間比率差の検定結果

昭和6年調査では、鉱業、農業、水産、商業、工業、公務の順で比率が多くなっているが、昭和42年にはこの順位が商業、公務、工

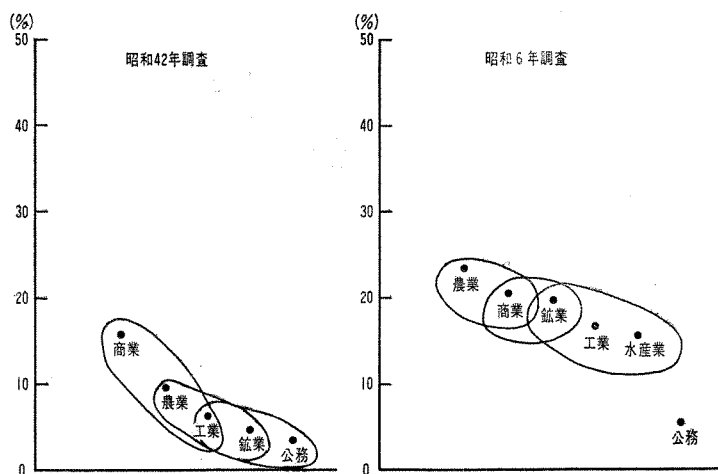


図 3—6 「くらし方」一生懸命に働き倹約して金持になること

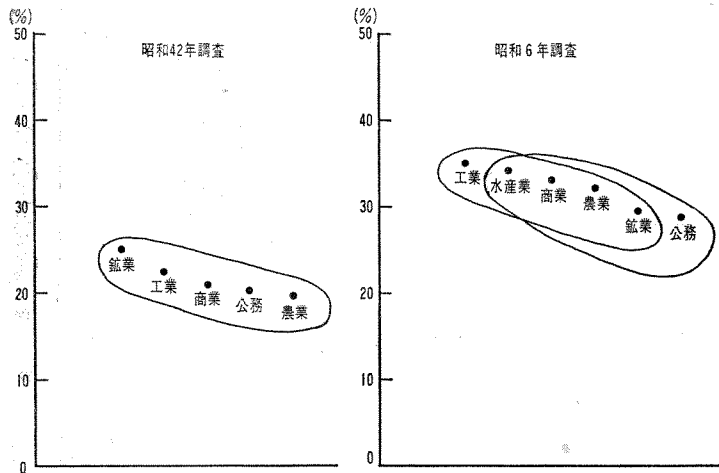


図3-9 「くらし方」世の中の正しくないことを押しのけてどこまでも清く正しくらすこと

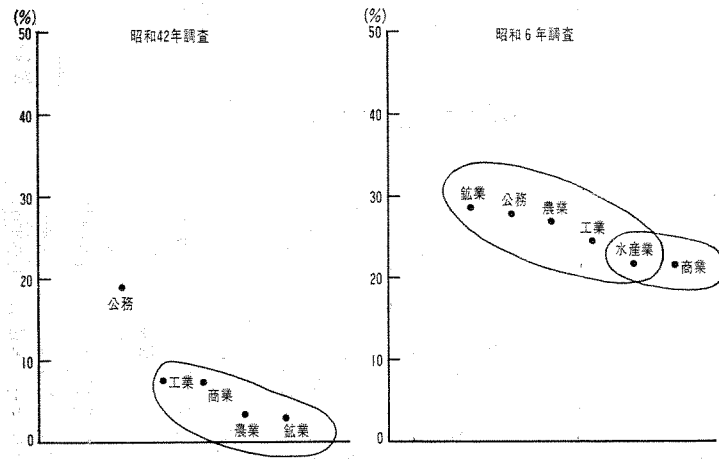


図3-10 「くらし方」自分一身のことを考えずに公のためにすべてを捧げてくらすこと

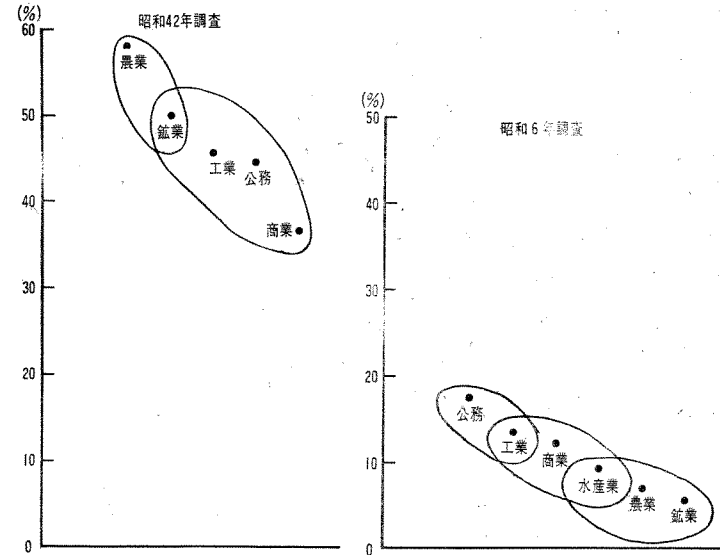


図3-7 「くらし方」金や名誉を考えずに自分の趣味に合ったくらし方をする

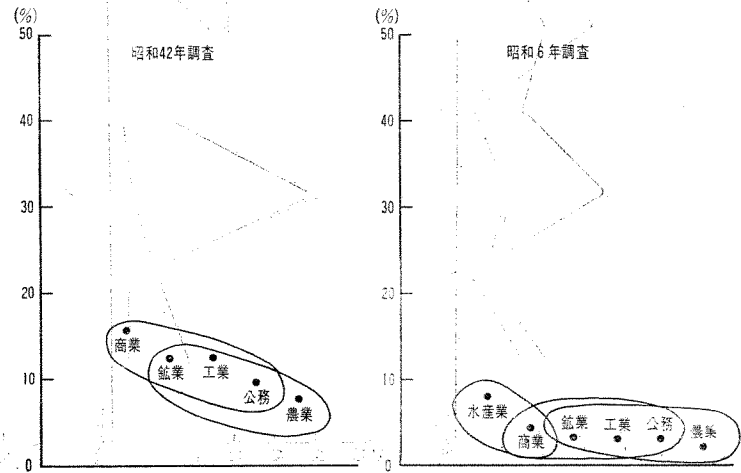


図3-8 「くらし方」その日その日をのんきにくよくよしないでくらすこと

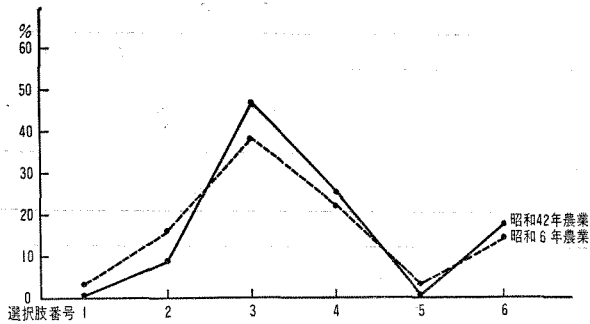


図3—11 問2「代議士選挙の基準」産業別選択肢分布状況

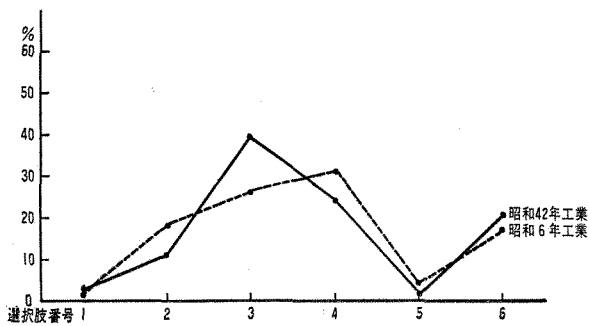


図3—12

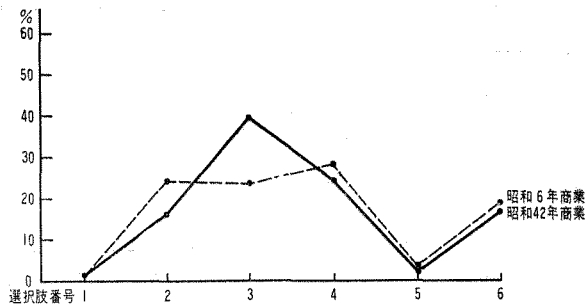


図3—13

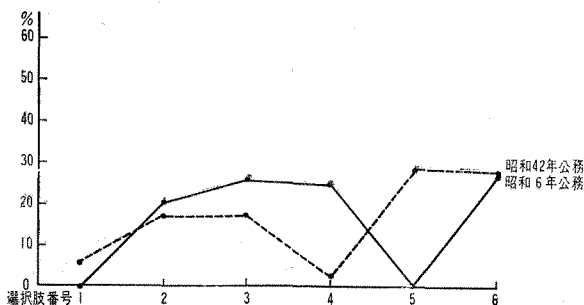


図3—14

業，鉱業，農業になっている。

(3) 選択肢〔4〕「その日その日をのんきにくよくよしないでくらすこと」の産業間比率差の検定結果

昭和6年調査では，この選択肢の比率はすべての産業において低率であるが，戦後，各産業において比率が増加している。しかし，戦後調査にない水産を除くと，農業，公務，工業，鉱業，商業の順で比率が高くなる傾向は，両調査に共通している。

(4) 選択肢〔5〕「世の中の正しくないことを押しのけて，どこまでも清く正しくくらすこと」の産業間比率差の検定結果

この選択肢は，戦前，戦後ともにあまり産業間の差はみられない。

(5) 選択肢〔6〕「自分一身のことを考えずに，公のためにすべてを捧げてくらすこと」の産業間比率差の検定結果

戦前においては，産業間にあまりはっきりした差がみられないが，戦後，公務の比率が他産業に対してかなり明確に高いのが注目される。

2. 問2「代議士選挙の基準」についての産業別対比

図によると，農業においては戦前，戦後ともに，地方への貢献度をもって代議士選挙の基準とするものが多く，選択の基本傾向は戦前，戦後同じであるといつてよい。

工業においては，戦前は農業と同様に選択肢〔3〕を選ぶものがもっとも多かったが，戦後では選択肢〔4〕の「政治に手腕のあること」の比率がもっとも多くなっているのが戦前と異なる点である。(図3—12参照)

商業は，戦前においては，選択肢〔2〕，〔3〕，〔4〕，〔6〕と比率が分散していたが，戦後は，選択肢〔3〕の比率が多くなり，農業工業の分布型に接近している。

公務は，戦前においては諸産業のうちでもっとも各選択肢に比率が分散していたが，戦後においてもこの傾向は同じである。戦後に比して，選択肢〔4〕の「政治に手腕のあること」の比率が増加し，選択肢〔5〕の「経歴の立派なこと」が減少しているのが目立つ。

鉱業は，戦後に選択肢〔4〕の比率がやや減少傾向である他，基本的には戦前と同じであるといつてよい。

表3-6 問2「代議士選挙の基準」産業別比率差の検定

産業	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
昭和6年 農 業		2.9	16.3	58.5	22.9	3.5	15.8	100 (1,937人)
昭和42年 農 業		0.6	9.0	46.8	25.6	1.0	17.0	100 (523人)

表3-7

産業	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
昭和6年 工 業		1.9	18.5	26.0	31.6	4.1	17.9	100 (2,108人)
昭和42年 工 業		2.4	11.3	39.5	24.2	1.6	21.0	100 (124人)

表3-8

産業	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
昭和6年 商 業		1.5	24.3	23.6	28.1	3.3	19.1	100 (2,085人)
昭和42年 商 業		1.0	16.5	39.8	24.3	1.9	16.5	100 (103人)

表3-9

産業	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
昭和6年 公務及自由業		5.5	17.3	17.6	3.0	28.9	27.7	100 (329人)
昭和42年 公 務		-	20.8	26.2	25.0	-	28.0	100 (168人)

表3-10

産業	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
昭和6年 鉱 業		1.9	14.4	34.4	34.1	4.1	11.1	100 (270人)
昭和42年 鉱 業		1.5	17.9	35.8	26.9	-	17.9	100 (87人)

産業別の各選択肢の比率差検定結果は、表(3-6)―(3-10)のごとくである。

「代議士選挙の基準」についての調査時点別の産業間の検定結果はつぎのとおりである。

(1) 選択肢〔2〕「人格の高いこと」の産業間比率差の検定結果

戦前、戦後ともに諸産業のうちで公務の比率がもっとも高く、「人格」という抽象的なものにも選挙の基準を求める傾向が諸産業のうちでもっとも強いことは、公務という職業のもつ中立性の強要をしめすものであろうか。

(2) 選択肢〔3〕「地方のためにつくしていること」の産業間比率差の検定結果

昭和6年調査では、水産業をのぞくと、農業、鉱業、工業、商業、公務の順に選択肢比率が低く、昭和42年調査でもやはり農業の比率がもっとも高くなっている。

(3) 選択肢〔4〕「政治について手腕のあること」の産業間比率差の検定結果
戦前、戦後において鉱業がもっとも高い比率をしめているが、戦後の諸産業間の比率には有意差がなく、戦前、戦後を通して一定の傾向をみることはできない。

(4) 選択肢〔6〕「その人の入っている政党の政策がよいと思われること」の産業間比率差の検定結果

戦前では諸産業間にはっきりした差はみとめられないが、戦前、戦後ともに公務の比率がもっとも高くなっている。

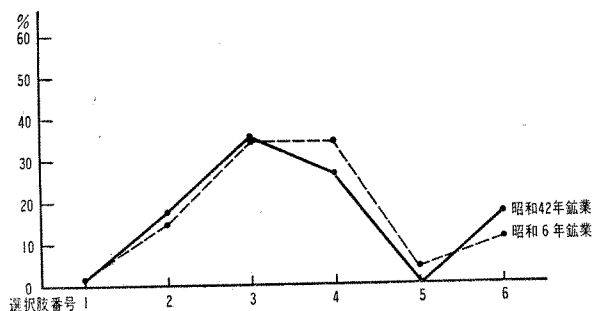


図3-15

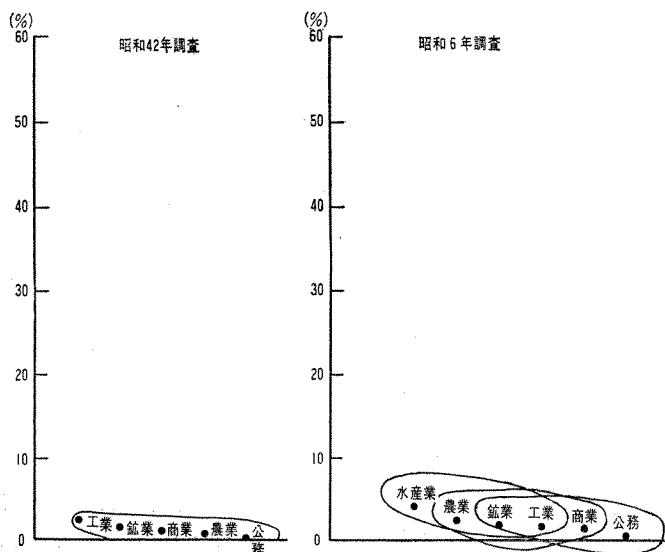


図3-16 「代議士選挙の基準」親戚、知合などの縁故のあること

学歴別、産業別にみた青年の生活態度の推移

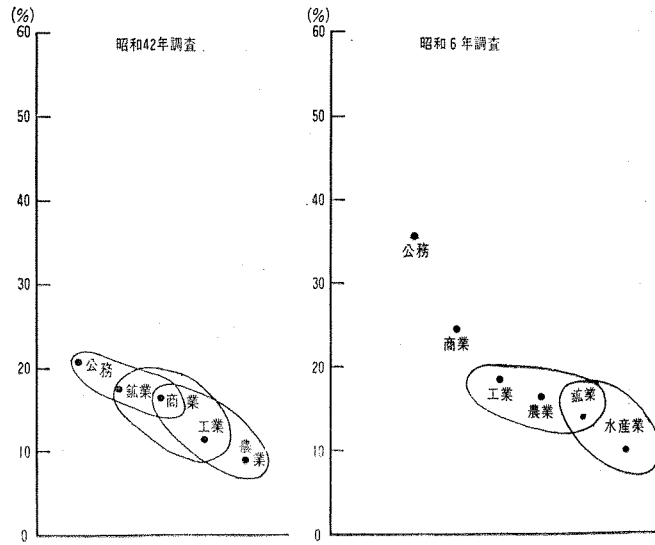


図3-17 「代議士選挙の基準」人格の高いこと

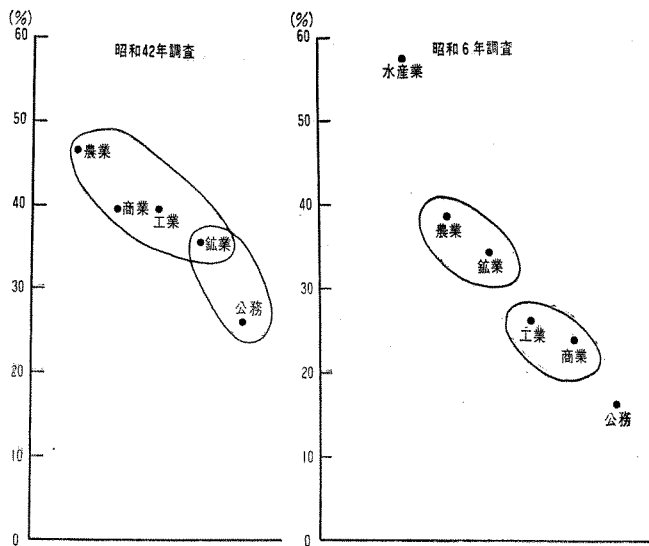
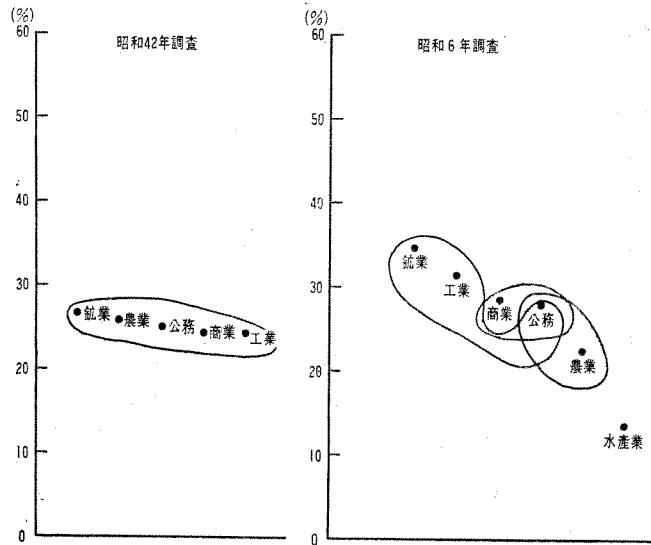
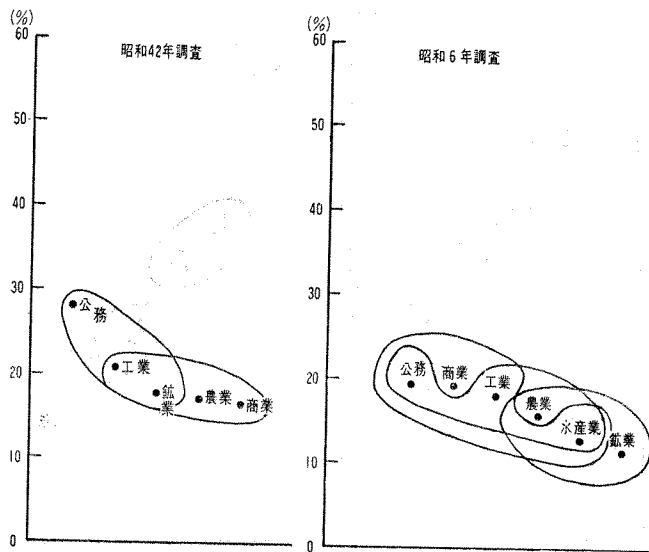


図3-18 「代議士選挙の基準」地方のためにつくしていること



注) 昭和6年調査で比率差の少ない商業と公務の間に有意差があり、比率差のより大きい産業と公務の間に有意差のないのは、公務の標本数が他に比して過少なために生じたものである。

図3-19 「代議士選挙の基準」政治について手腕のあること



注) 昭和6年調査の図の乱れは上記と同様、公務と水産業の標本数が他に比して過少なために生じたものである。

図3-20 「代議士選挙の基準」その人の入っている政党の政策とがよいと思われること

第4章 男 女 対 比

昭和42年について，学歴別，産業別に男女対比を試みた結果である。

1. 学歴別男女対比

図表によると，各学歴において，「くらし方」に関して男女間に基本的差異はみとめられないが，比率差の検定をみると，いくつかの選択肢に傾向のちがいを見出すことができる。

男子の各学歴層中選択肢〔3〕の比率は高校卒業生が

問1「くらし方」学歴別男女対比選択肢分布状況

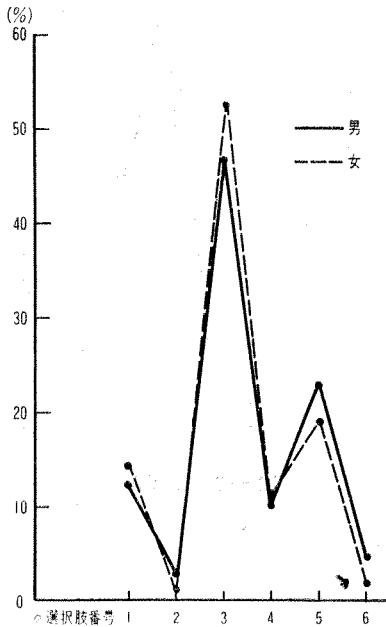


図4-1 中 卒

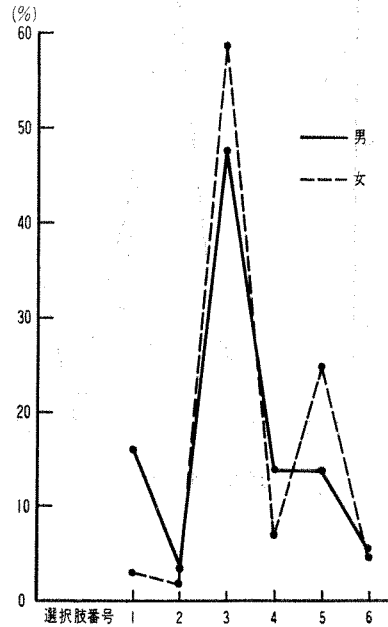


図4-3 定高在

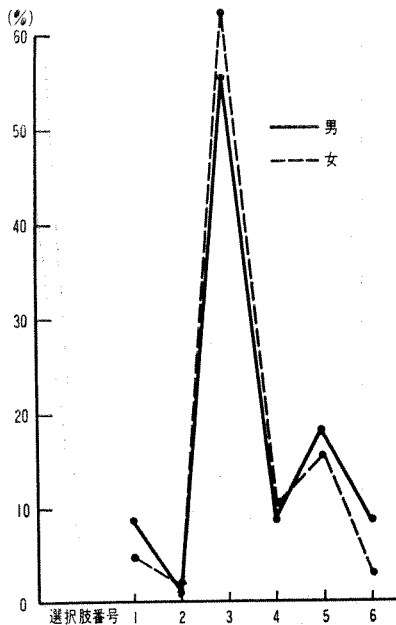


図4-2 高 卒

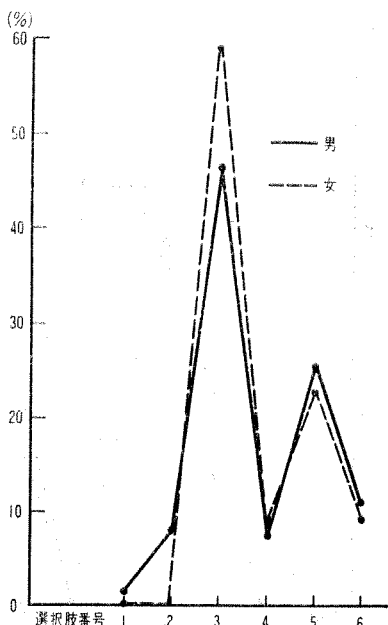


図4-4 大在, 大卒

問2「代議士選挙の基準」学歴別男女対比選択肢分布状況

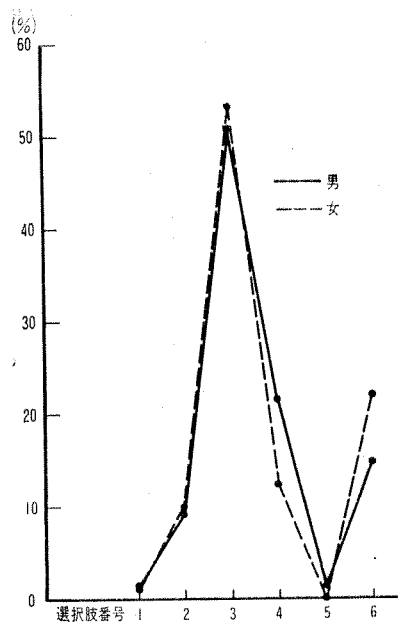


図4-5 中 卒

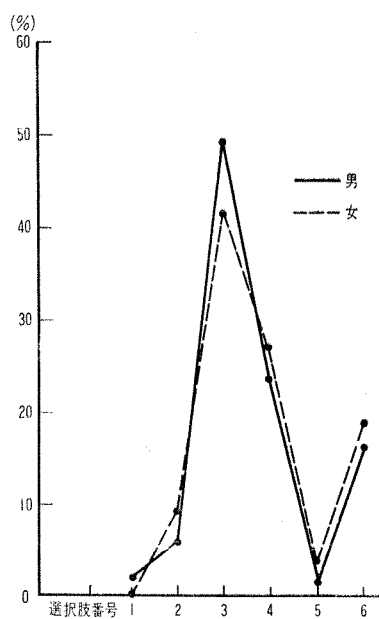


図4-7 定高在

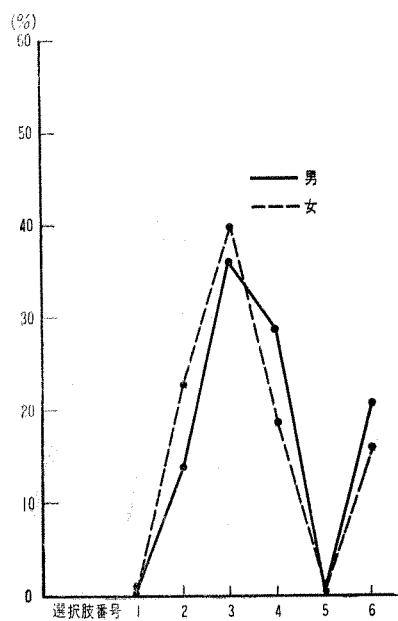


図4-6 高 卒

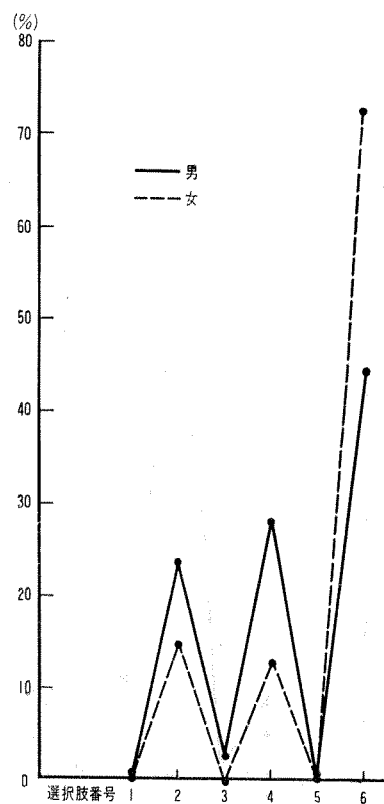


図4-8 大在, 大卒

表4-1 問1「くらし方」学歴別男女比率差の検定結果

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
中学卒業	男	12.4	2.9	46.7	10.1	23.2	4.8	100 (315人)
	女	14.1	0.5	52.5	11.6	19.2	2.0	100 (198人)

表4-2

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
高校卒業	男	7.9	1.3	55.4	8.6	18.2	8.6	100 (455人)
	女	4.8	1.5	64.5	10.6	15.8	2.9	100 (273人)

表4-3

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
定時制高校在学	男	16.0	5.2	47.9	13.8	13.8	5.3	100 (94人)
	女	2.9	1.9	58.7	6.7	25.0	4.8	100 (104人)

表4-4

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
大学在学及び卒業	男	1.6	8.0	46.5	7.5	25.7	10.7	100 (187人)
	女	—	—	59.1	9.1	22.7	9.1	100 (44人)

表4-5 問2「代議士選挙の基準」学歴別男女比率差の検定結果

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
中学卒業	男	1.3	9.7	51.2	21.3	1.6	15.0	100 (320人)
	女	1.0	10.4	53.5	12.9	—	22.3	100 (202人)

表4-6

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
高校卒業	男	0.4	14.1	35.9	28.2	0.4	20.9	100 (468人)
	女	1.1	22.8	59.9	18.8	1.1	16.3	100 (276人)

表4-7

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
定時制高校在学	男	2.0	6.1	49.5	24.2	2.0	16.2	100 (99人)
	女	—	9.5	41.9	25.7	3.9	19.0	100 (105人)

表4-8

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
大学在学及び卒業	男	0.5	24.0	2.6	28.1	0.5	44.3	100 (192人)
	女	—	14.9	—	12.8	—	72.3	100 (47人)

もっとも高いが、女子高校卒業生の比率はさらに有意差をもって高くなっている。男女ともに高校卒業生が現実主義的傾向をしめすこの選択肢の比率が最高となってい

る理由についてはなお一層の考察が必要であろう。その他、有意差のあるのは、高校卒業生の選択肢〔6〕、定時制高校在学学生の選択肢〔1〕などがある。

「代議士選挙の基準」についても図から判断すると、男女間の差は基本的にはないようである。

検定結果で差異のあるのは、中学校、高校、大学の選択肢〔4〕、高校の選択肢〔2〕、中学校、大学の選択肢〔6〕である。このうち興味あるのは、選択肢〔4〕「政治に手腕がある」が3つの学歴層で女子より男子の比率が高くなっていること、また、中学校と大学で「その人の入っている政党の政策がよいと思えること」の選択肢比率は女子の方に高くなっていることである。「政治手腕」より「政策」という傾向は、政治について女子は男子より理想主義的であるという一端をうかがうことができる。

2. 産業別男女対比

図表をみると、学歴対比と同じく、「くらし方」について男女間に基本的傾向の差異はみとめられない。

検定結果では、商業で男子が女子に比して選択肢〔1〕の勤儉型が多く、選択肢〔3〕の現実型が少ないこと、また公務で、男子の方に選択肢〔6〕の公共型の多いことが目立っている。

「代議士選挙の基準」についても男女間に基本的なちがいはみられない。

検定結果では、農業と公務において、女子は男子に比

表4-9 問1「くらし方」産業別男女比率差の検定結果

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
農業	男	9.6	1.4	58.0	7.8	19.7	3.5	100 (512人)
	女	10.5	0.8	58.0	3.9	23.5	3.4	100 (288人)

表4-10

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
工業	男	7.5	4.2	45.8	12.5	22.5	7.5	100 (120人)
	女	1.8	1.8	49.1	21.8	23.6	1.8	100 (55人)

表4-11

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
商業	男	15.8	3.2	36.8	15.8	21.1	7.4	100 (95人)
	女	5.5	1.1	62.6	11.0	17.6	2.2	100 (91人)

表4-12

性別	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
公務	男	3.6	2.4	44.9	9.6	20.4	19.2	100 (167人)
	女	4.4	2.7	68.1	10.6	13.3	0.9	100 (113人)

問1「くらし方」産業別男女対比選択肢分布状況

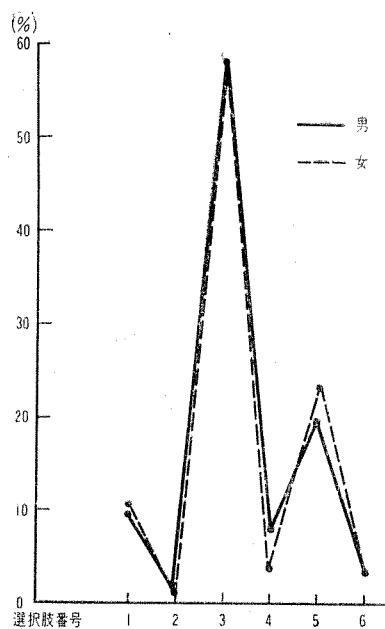


図4-9 農業

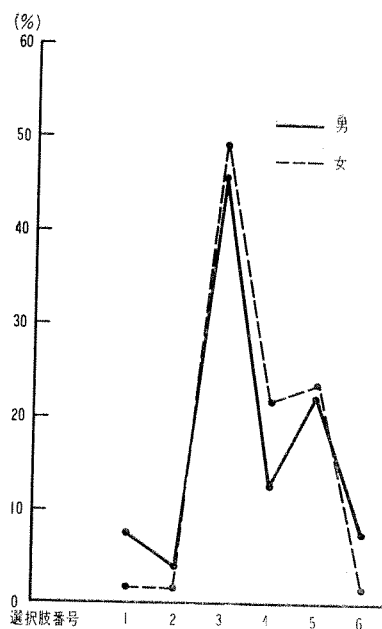


図4-10 工業

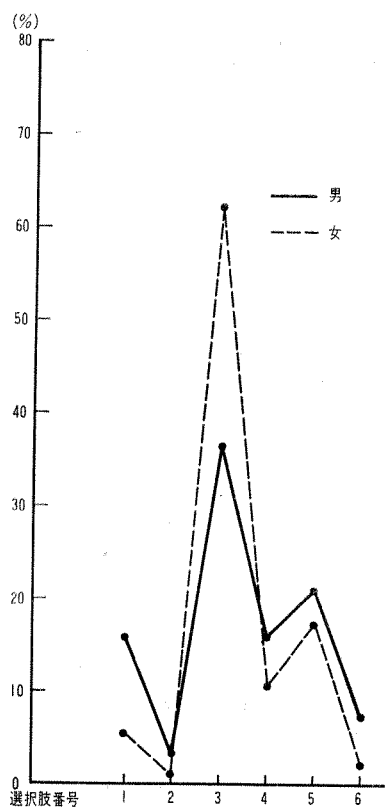


図4-11 商業

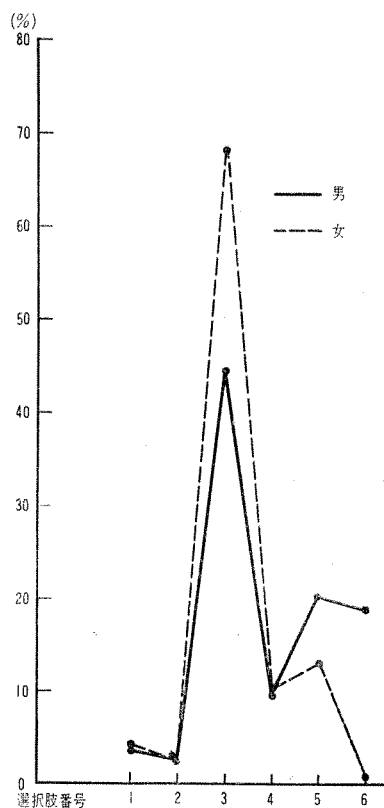


図4-12 公務

問2「代議士選挙の基準」産業別男女対比選択肢分布状況

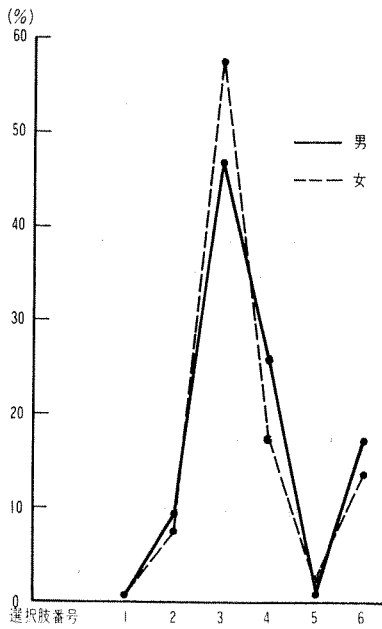


図4-13 農業

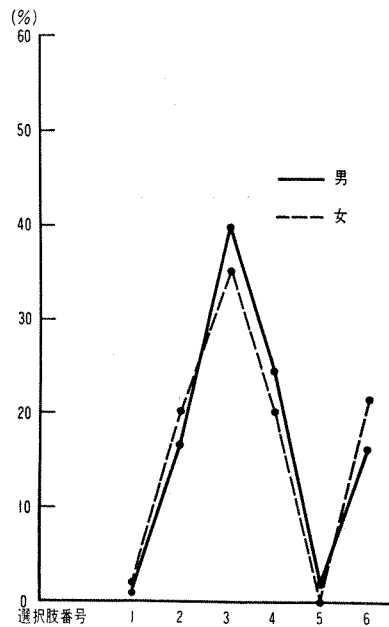


図4-15 商業

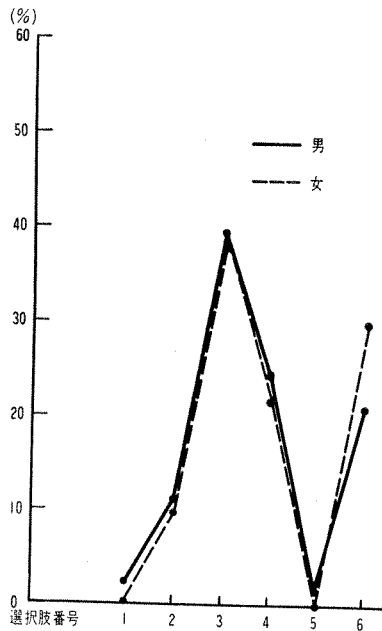


図4-14 工業

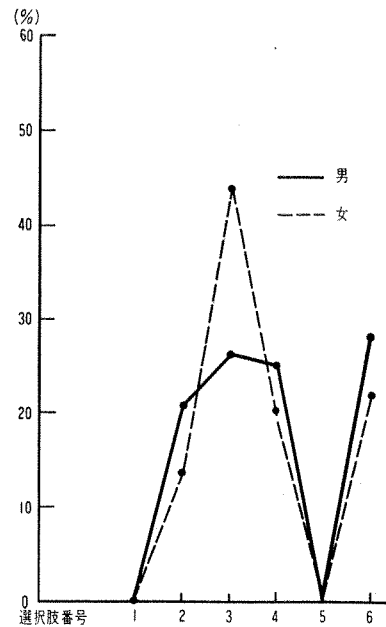


図4-15 公務

表4-13 問2「代議士選挙の基準」産業別男女比率差の検定結果

性別		選択肢番号						計
農	業 男	0.6	9.0	46.8	25.6	1.0	17.0	100 (523人)
	業 女	0.8	7.6	57.6	17.8	2.5	13.6	100 (236人)

表4-14

性別		選択肢番号						計
工	業 男	2.4	11.3	39.5	24.2	1.6	21.0	100 (124人)
	業 女	—	10.0	58.3	21.7	—	30.0	100 (60人)

表4-15

性別		選択肢番号						計
商	業 男	1.0	16.5	39.8	24.3	1.9	16.5	100 (105人)
	業 女	2.1	20.2	35.1	20.2	—	22.3	100 (94人)

表4-16

性別		選択肢番号						計
公	務 男	—	20.8	26.2	25.0	—	28.0	100 (168人)
	務 女	—	14.0	43.9	20.2	—	21.9	100 (114人)

して、選択肢〔3〕を選ぶものが多く、選挙について、女子がより地方的であることがあげられる。

要 約

報告の主なる結果はつぎのとおりである。

1)「一生懸命に働き 節約して……」(問1, 選択肢〔1〕)は、戦後すべての学歴層で選択するものが減少しているが、学歴が低くなるにつれて、この選択肢を選ぶものが多くなる傾向は、戦前、戦後共通している。

2)「金や名誉を考えずに……」(問1, 選択肢〔3〕)は、戦後はすべての学歴層、産業で最高の比率をしめ、各選択肢のうちで戦前と最も異なる傾向をみせている。

学歴別に検討すると、戦前では学歴が高くなると比率

が減少しているが、戦後では高等学校卒業者の比率がもっとも高く、大学在学者卒業者の比率が最低となっている。

3) 問1の選択肢〔3〕と同系列に属する「その日その日をのんきに……」(問1, 選択肢〔4〕)は、戦後すべての学歴層、産業を通して比率が増大しているが、農業、公務、工業、鉱業、商業の順で比率が高くなる傾向は、戦前戦後同じである。

4)「世の中の正しくないこと……」(問1, 選択肢〔5〕)は、戦前には学歴間の差がなかったが、戦後は、大学と中学校にこの選択肢を選ぶものが多くなっている。

5)「代議士選挙の基準」では、大学をのぞいて、戦後「地方のために……」(問2, 選択肢〔3〕)の比率がもっとも増加している。

この選択肢は、戦前戦後ともに学歴が高くなると減少する傾向がある。

産業別では、戦前戦後とも農業の比率がもっとも高くなっている。

6)「人格……」(問2, 選択肢〔2〕)を代議士選挙の基準とするものは、戦後各学歴層とも減少しているが、学歴が高くなるとともに比率も上昇する傾向は戦前戦後同じである。

7)「政党の政策」(問2, 選択肢〔6〕)を選挙基準にするものの比率は、戦前戦後とも、学歴の高くなるほど上昇の傾向をみせている。

後 記

集計にあたっては川端杏子、島田玲子、吉田正一、安藤君孝、佐野弘、野村貞の諸氏および教育学部の学生諸君の協力を得た。

調査の実施については、各方面の多数の方からご援助をうけた。

以上の方々に、誌上を借りて厚く謝意を表する次第である。

附資料1

教 育 調 査

北海道大学教育学部
教育計画研究室

この調査の内容は、昭和6年文部省が当時の20代の青年を対象として実施したものと同じものです。この間に青年の考え方や社会知識がどのように変化したかを研究するのが調査の目的です。調査結果は目的以外に使うことはありません。また、氏名を書く必要はなく、秘密を厳守しますので記入にご協力下さい。

学歴別、産業別にみた青年の生活態度の推移

あなたのことについて、つぎのことを記入してください。

- あなたの性別についてあてはまるほうに○をつけてください。(男・女)
- あなたの生年月日を書いてください。(明治
大正 年 月
昭和)
- あなたの出身を書いてください。(都 市 町) [学校(卒業, 中退)]
道 支 郡
府 庁 郡
県
- あなたは自分の家の仕事に従事していますか。またはやとわれて働いていますか。あてはまるほうに○をつけてください。
① 自分の家の仕事に従事している。 ② やとわれて働いている。
- やとわれて働いている人は勤先の従業員の数についてあてはまるところに○をつけてください。(官公庁に勤めている人は、官公庁のところに○をつけてください。)
① 1～9人 ② 10～29人 ③ 30～99人 ④ 100～299人 ⑤ 300～999人 ⑥ 1000人以上 ⑦ 官公庁
- あなたの現在の仕事についてできるだけわかるように書いてください。
例) クリーニング店に勤めている人は、ただ(クリーニング店員)と書かないで、(クリーニング店配達係)または(クリーニング店仕上工)というように、仕事の内容がわかるように書いてください。
あなたの仕事の内容 ()
- あなたのお父さんの仕事について、上の例のように書いてください。
お父さんの仕事の内容 ()

第一部 問 題

- 人のくらし方にはいろいろありますが、つぎのようなもののうちで、諸君は将来どういうものをえらびたいと思いますか。まず一番よいと思うもの一つだけに○をつけなさい。
(1) 一生懸命に働き節約して金持になること。
(2) まじめに勉強して名を上げること。
(3) 金や名誉を考えずに自分の趣味に合ったくらし方をする事。
(4) その日その日をのんきにくよくよしないでくらすこと。
(5) 世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しくくらすこと。
(6) 自分一身のことを考えずに、公のためにすべてを捧げてくらすこと。
- 諸君が国会議員を選挙するとき、候補者にはいろいろな人がありますが、諸君はつぎのうちで、どれを一番大切と考えますか。一番大切と思うもの一つだけに○をつけなさい。
(1) 親戚、知合などの縁故のあること。
(2) 人格の高いこと。
(3) 地方のためにつくしていること。
(4) 政治について手腕のあること。
(5) 経歴の立派なこと。
(6) その人の入っている政党の政策がよいと思われること。
- 諸君は諸君の今住んでいる市(町、村)の治め方についていろいろな感じをもっているでしょう。つぎに書いてあるもののうちでどれが一番諸君の気持と合っているでしょうか。その一つだけに○をつけなさい。
(1) 今のやり方で満足である。
(2) 今のやり方よりしかたがないと思う。
(3) 市(町、村)のなかに勢力争いがあるため円満に行かないので困ると思う。
(4) 市(町、村)の吏員や議員が不まじめで困ると思う。
(5) 市(町、村)の吏員や議員に手腕がなくて困ると思う。
(6) 市(町、村)の治め方がとかく一部分の人の意見や利益だけを考えて行なわれるので困る。
(7) 市(町、村)の治め方はどうでもよいと思う。

教育学部紀要 第15号

4. 今の世の中で、労働者と事業主との間に争いが起った場合に、これをまとめてゆくにはどうすればよいかについては、いろいろな意見がありましようが、諸君はつぎに書いてある考えのうちでどれに一番賛成ですか。一番賛成のもの一つだけに○をつけなさい。

- (1) 事業主が労働者の言うことをよくきいて、賃金を増すこと。
- (2) 労働者が事業主の言うことをよくきいて不平を言わないで働くこと。
- (3) 両方が互いに譲りあって折合をよくするようにしてゆくこと。
- (4) 政府が両方の間にたつて悪い方を抑えてまとめてゆくこと。
- (5) 政府が労働者の味方になって事業主を抑えてゆくこと。
- (6) 政府が事業主に味方をして、労働者を抑えてゆくこと。

5. 税金は何故納めねばならぬでしょうか。その理由はいろいろありましようが、諸君はつぎの理由のうちでどれが一番もつともであると考えますか。一番もつともであると思うもの一つだけに○をつけなさい。

- (1) 我等は常に国から恩を受けているから、その恩返しとして税金を納める。
- (2) 納税は義務となっているから已むを得ない。
- (3) 必要な国の費用は国民が納めるのが当然であるから。
- (4) 税金を納めないと処分を受けて、自分の恥になるから。
- (5) 納税を怠ると市役所（町村役場）や税務署に迷惑をかけるから。
- (6) 国から利益を受けるので、納税しても別に損にならないから。

附資料 2

問1「くらし方」年代別選択肢分布状況（全調査対象男子）

年代	選択肢番号		1	2	3	4	5	6	計
19 ~ 20 代	人 数		54	17	280	50	106	30	537
	%		10.1	3.2	52.1	9.3	19.7	5.6	100
10 代	人 数		141	19	488	72	149	31	900
	%		15.7	2.1	54.2	8.0	16.6	3.4	100
20 代	人 数		50	19	328	60	139	54	650
	%		7.7	2.9	50.5	9.2	21.4	8.3	100
30 代	人 数		21	4	105	24	66	21	241
	%		8.7	1.7	43.6	10.0	27.4	8.7	100
40 代	人 数		6	3	37	12	25	14	97
	%		6.2	3.1	38.1	12.4	25.8	14.4	100
50 代	人 数		5	1	14	8	14	9	51
	%		9.8	2.0	27.5	15.7	27.5	17.6	100

問2「代議士選挙の基準」年代別選択肢分布状況（全調査対象男子）

年代	選択肢番号		1	2	3	4	5	6	計
19 ~ 20 代	人 数		6	66	215	144	6	120	557
	%		1.1	11.8	38.6	25.9	1.1	21.5	100
10 代	人 数		8	64	499	166	25	141	903
	%		0.9	7.1	55.3	18.4	2.8	15.6	100
20 代	人 数		4	105	229	168	5	153	664
	%		0.6	15.8	34.5	25.3	0.8	23.0	100
30 代	人 数		-	63	55	37	1	88	244
	%		-	25.8	22.5	15.2	0.4	36.1	100
40 代	人 数		1	19	16	25	1	43	105
	%		1.0	18.1	15.2	23.8	1.0	41.0	100
50 代	人 数		1	7	12	11	1	22	54
	%		1.9	13.0	22.2	20.4	1.9	40.7	100

学歴別、産業別にみた青年の生活態度の推移

問1「くらし方」年代別選択肢分布状況（全調査対象女子）

選択肢番号 年代		1	2	3	4	5	6	計
19 ～ 20 代	人 数	35	8	334	45	94	19	535
	%	6.5	1.5	62.4	8.4	17.6	3.6	100
10 代	人 数	72	5	452	76	129	28	762
	%	9.4	0.7	59.3	10.0	16.9	3.7	100
20 代	人 数	20	2	156	36	61	8	283
	%	7.1	0.7	55.1	12.7	21.6	2.8	100
30 代	人 数	17	-	43	15	22	2	99
	%	17.2	-	43.4	15.2	22.2	2.0	100
40 代	人 数	20	1	39	20	16	-	96
	%	20.8	1.0	40.6	20.8	16.7	-	100
50 代 以上	人 数	8	-	10	9	13	1	41
	%	19.5	-	24.4	22.0	31.7	2.4	100

問2「代議士選挙の基準」年代別選択肢分布状況（全調査対象女子）

選択肢番号 年代		1	2	3	4	5	6	計
19 ～ 20 代	人 数	1	94	218	97	5	119	534
	%	0.2	17.6	40.8	18.2	0.9	22.3	100
10 代	人 数	1	68	441	149	7	113	779
	%	0.1	8.7	56.6	19.1	0.9	14.5	100
20 代	人 数	4	46	113	51	2	76	292
	%	1.4	15.8	38.7	17.5	0.7	26.0	100
30 代	人 数	4	11	38	19	2	25	99
	%	4.1	11.1	38.4	19.2	2.0	25.3	100
40 代	人 数	4	17	40	13	5	20	99
	%	4.1	17.2	40.4	13.1	5.1	20.2	100
50 代 以上	人 数	-	6	23	6	1	4	40
	%	-	15.0	57.5	15.0	2.5	10.0	100

附資料 3

問1「くらし方」学歴別選択肢分布状況（全調査対象男子）

選択肢番号 学歴		1	2	3	4	5	6	計
中 卒	人 数	111	14	318	65	161	28	697
	%	15.9	2.0	45.6	9.3	23.1	4.0	100
定 高 在	人 数	61	15	255	41	54	19	445
	%	13.7	3.3	57.3	9.2	12.1	4.3	100
定 高 中 退	人 数	1	-	1	1	1	-	4
	%	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	100
定 高 卒	人 数	4	-	29	2	14	2	51
	%	7.8	-	56.9	3.9	27.5	3.9	100
高 在	人 数	27	3	98	16	18	3	165
	%	16.4	1.8	59.4	9.7	10.9	1.8	100
高 中 退	人 数	1	-	12	1	6	-	20
	%	5.0	-	60.0	5.0	30.0	-	100
高 卒	人 数	47	9	312	47	99	47	561
	%	8.4	1.6	55.6	8.4	17.6	8.4	100
短 大 在	人 数	-	2	26	4	7	1	40
	%	-	5.0	65.0	10.0	17.5	2.5	100
短 大 中 退	人 数	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-
短 大 卒	人 数	-	-	8	3	5	2	18
	%	-	-	44.4	16.7	27.8	11.1	100

教育学部紀要 第15号

4 大 在	人 数 %	2 1.3	13 8.4	77 50.0	14 9.1	35 22.7	13 8.4	154 100
4 大 中 退	人 数 %	1 33.3	-	2 66.7	-	-	-	3 100
4 大 卒	人 数 %	1 1.1	2 2.2	33 36.7	4 4.4	38 42.2	12 13.3	90 100
尋 小 中 退	人 数 %	-	-	-	1 50.0	-	1 50.0	2 100
尋 小 卒	人 数 %	4 9.1	1 2.3	14 31.8	7 15.9	11 25.0	7 15.9	44 100
高 小 中 退	人 数 %	-	-	-	-	1 100.0	-	1 100
高 小 卒	人 数 %	8 10.3	1 1.3	31 39.7	9 11.5	20 25.6	9 11.5	78 100
実 補 中 退	人 数 %	-	-	2 100.0	-	-	-	2 100
実 補 卒	人 数 %	1 12.5	-	4 50.0	3 37.5	-	-	8 100
旧 中 中 退	人 数 %	-	-	-	-	-	-	-
旧 中 卒	人 数 %	2 4.8	2 4.8	12 28.6	5 11.9	12 28.6	9 21.4	42 100
専門学校中退	人 数 %	-	-	-	-	-	-	-
専門学校以上	人 数 %	-	1 4.8	8 38.1	-	9 42.9	3 14.3	21 100
不 明	人 数 %	8 15.1	1 1.9	23 43.4	7 13.2	11 20.8	3 5.7	53 100
合 計	人 数	279	64	1,265	230	502	159	2,499

問2 「代議士選挙の基準」学歴別選択肢分布状況（全調査対象男子）

学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
中 卒	人 数 %	5 0.7	47 6.7	411 58.6	125 17.8	18 2.6	95 13.6	701 100
定 高 在	人 数 %	7 1.5	34 7.5	238 52.2	92 20.2	12 2.6	73 16.0	456 100
定 高 中 退	人 数 %	-	1 25.0	-	1 25.0	-	2 50.0	4 100
定 高 卒	人 数 %	-	6 11.3	23 43.4	16 30.2	1 1.9	7 13.2	53 100
高 在	人 数 %	1 0.6	24 14.5	64 38.6	38 22.9	2 1.2	37 22.3	166 100
高 中 退	人 数 %	1 5.0	3 15.0	8 40.0	5 25.0	-	3 15.0	20 100
高 卒	人 数 %	2 0.3	88 15.3	202 35.2	152 26.5	2 0.3	128 22.3	574 100
短 大 在	人 数 %	-	6 15.0	15 37.5	9 22.5	-	10 25.0	40 100
短 大 中 退	人 数 %	-	-	-	-	-	-	-
短 大 卒	人 数 %	-	7 36.8	2 10.5	3 15.8	-	7 36.8	19 100
4 大 在	人 数 %	1 0.6	37 23.4	1 0.6	46 29.1	1 0.6	72 45.6	158 100

学歴別、産業別にみた青年の生活態度の推移

4 大 中 退	人 数 %	- -	1 33.3	1 33.3	- -	- -	1 33.3	3 100
4 大 卒	人 数 %	- -	23 25.3	7 7.7	16 17.6	1 1.1	44 48.4	91 100
尋 小 中 退	人 数 %	- -	1 50.0	- -	- -	- -	1 50.0	2 100
尋 小 卒	人 数 %	1 2.2	6 13.0	9 19.6	11 23.9	1 2.2	18 39.1	46 100
高 小 中 退	人 数 %	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	1 100
高 小 卒	人 数 %	- -	11 13.3	17 20.5	22 26.5	1 1.2	32 38.6	83 100
実 補 中 退	人 数 %	- -	1 50.0	- -	- -	- -	1 50.0	2 100
実 補 卒	人 数 %	- -	- -	2 25.0	2 25.0	- -	4 50.0	8 100
旧 中 中 退	人 数 %	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
旧 中 卒	人 数 %	- -	14 31.8	3 6.8	7 15.9	- -	20 45.5	44 100
専門学校中退	人 数 %	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
専 門 学 校 卒 以 上	人 数 %	- -	6 27.3	2 9.1	4 18.2	- -	10 45.5	22 100
不 明	人 数 %	1 1.8	10 17.5	27 47.4	8 14.0	- -	11 19.3	57 100
合 計	人 数	20	326	1,032	557	39	576	2,550

問1 「くらし方」学歴別選択肢分布状況（全調査対象女子）

学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
中 卒	人 数 %	66 14.7	1 0.2	233 51.9	51 11.4	91 20.3	7 1.6	449 100
定 高 在	人 数 %	27 6.7	5 1.2	243 60.4	33 8.2	76 18.9	18 4.5	402 100
定 高 中 退	人 数 %	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -	1 100
定 高 卒	人 数 %	1 3.7	- -	15 55.6	1 3.7	10 37.0	- -	27 100
高 在	人 数 %	6 3.9	1 0.6	99 63.9	14 9.0	25 16.1	10 6.5	155 100
高 中 退	人 数 %	- -	- -	2 40.0	2 40.0	1 20.0	- -	5 100
高 卒	人 数 %	14 4.6	4 1.3	196 64.5	33 10.9	48 15.8	9 3.0	304 100
短 大 在	人 数 %	14 7.7	4 2.2	123 68.0	19 10.5	16 8.8	5 2.8	181 100
短 大 中 退	人 数 %	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
短 大 卒	人 数 %	1 6.7	- -	10 66.7	- -	3 20.0	1 6.7	15 100
4 大 在	人 数 %	- -	- -	26 59.1	4 9.1	10 22.7	4 9.1	44 100
4 大 中 退	人 数 %	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

教育学部紀要 第15号

4 大 卒	人 数 %	11.1	-	55.5	-	22.2	11.1	9 100
尋 小 中 退	人 数 %	-	-	-	-	-	-	-
尋 小 卒	人 数 %	20 29.9	1 1.5	14 20.9	14 20.9	18 26.9	-	67 100
高 小 中 退	人 数 %	-	-	-	-	-	-	-
高 小 卒	人 数 %	9 14.1	-	25 39.1	16 25.0	14 21.9	-	64 100
実 補 中 退	人 数 %	-	-	-	-	-	-	-
実 補 卒	人 数 %	-	-	-	-	100.0	-	1 100
旧 中 中 退	人 数 %	-	-	3 75.0	-	1 25.0	-	4 100
旧 中 卒	人 数 %	7 13.7	-	25 49.0	11 21.6	7 13.7	1 2.0	51 100
専門学校中退	人 数 %	-	-	-	-	-	-	-
専門学校卒上	人 数 %	1 33.3	-	2 66.7	-	-	-	3 100
不 明	人 数 %	5 10.6	-	19 40.4	7 14.9	14 29.8	2 4.3	47 100
合 計	人 数	172	16	1,041	205	337	58	1,829

問2 「代議士選挙の基準」学歴別選択肢分布状況（全調査対象女子）

学歴	選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
中 卒	人 数 %	3 0.7	30 6.5	288 62.7	62 13.5	4 0.9	72 15.7	459 100
定 高 在	人 数 %	-	30 7.4	225 55.4	75 18.5	5 1.2	71 17.5	406 100
定 高 中 退	人 数 %	-	-	1 100.0	-	-	-	1 100
定 高 卒	人 数 %	-	1 3.8	15 57.7	6 23.1	-	4 15.4	26 100
高 在	人 数 %	-	22 13.7	66 41.0	51 31.7	1 0.6	21 13.0	161 100
高 中 退	人 数 %	-	-	5 71.4	1 14.3	-	1 14.3	7 100
高 卒	人 数 %	3 1.0	69 22.4	115 37.3	66 21.4	3 1.0	52 16.9	308 100
短 大 在	人 数 %	-	48 26.5	49 27.1	32 17.7	1 0.6	51 28.2	181 100
短 大 中 退	人 数 %	-	-	-	-	-	-	-
短 大 卒	人 数 %	-	2 14.3	7 50.0	2 14.3	-	3 21.4	14 100
4 大 在	人 数 %	-	7 14.9	-	6 12.8	-	34 72.3	47 100
4 大 中 退	人 数 %	-	-	-	-	-	-	-
4 大 卒	人 数 %	-	-	2 22.2	3 33.3	-	4 44.4	9 100

学歴別、産業別にみた青年の生活態度の推移

尋小中退	人数	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-
尋小卒	人数	3	7	35	9	3	5	62
	%	4.8	11.3	56.5	14.5	4.8	8.1	100
高小中退	人数	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-
高小卒	人数	3	7	34	5	1	9	59
	%	5.1	11.9	57.6	8.5	1.7	15.3	100
実補中退	人数	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-
実補卒	人数	-	-	-	-	-	1	1
	%	-	-	-	-	-	100.0	100
旧中中退	人数	-	1	3	-	-	-	4
	%	-	25.0	75.0	-	-	-	100
旧中卒	人数	-	12	14	12	2	18	58
	%	-	20.7	24.1	20.7	3.4	31.0	100
専門学校中退	人数	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-
専門学校卒 以	人数	-	2	-	-	-	2	4
	%	-	50.0	-	-	-	50.0	100
不明	人数	2	4	20	8	3	13	50
	%	4.0	8.0	40.0	16.0	6.0	26.0	100
合 計	人 数	14	242	879	338	23	361	1,857

問 1 「くらし方」産業別選択肢分布状況（全調査対象男子）

産業別		選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
農 業	人 数		103	11	447	60	170	34	825
	%		12.5	1.3	54.2	7.3	20.6	4.1	100
漁 業	人 数		21	-	34	5	20	-	80
	%		26.3	-	42.5	6.2	25.0	-	100
鉱 業	人 数		6	3	57	15	27	4	112
	%		5.3	2.7	50.9	13.4	24.1	3.6	100
工 業	人 数		59	16	223	42	83	23	446
	%		13.2	3.6	50.0	9.4	18.6	5.2	100
商 業	人 数		29	8	92	26	42	11	208
	%		13.9	3.9	44.2	12.5	20.2	5.3	100
公 務	人 数		17	9	172	43	91	67	399
	%		4.3	2.2	43.1	10.8	22.8	16.8	100
計			235	47	1,025	191	433	139	2,070

問 2 「代議士選挙の基準」産業別選択肢分布状況（全調査対象男子）

産業別		選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
農 業	人 数		9	63	426	184	18	135	835
	%		1.1	7.5	51.0	22.0	2.2	16.2	100
漁 業	人 数		1	6	52	14	3	9	85
	%		1.2	7.0	61.2	16.5	3.5	10.6	100
鉱 業	人 数		1	17	32	30	-	35	115
	%		0.9	14.8	27.8	26.1	-	30.4	100
工 業	人 数		4	42	226	90	11	76	449
	%		0.9	9.4	50.3	20.0	2.5	16.9	100

教育学部紀要 第15号

商	業	人 数	1	25	99	51	2	39	217
		%	0.5	11.5	45.6	23.5	0.9	18.0	100
公	務	人 数	-	98	83	74	3	148	406
		%	-	24.1	20.5	18.2	0.7	36.5	100
計			16	251	918	443	37	442	2,107

問1 「くらし方」産業別選択肢分布状況（全調査対象女子）

産業別		選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
農	業	人 数	62	4	292	43	125	15	541
		%	11.5	0.7	54.0	7.9	23.1	2.8	100
漁	業	人 数	3	-	23	8	5	-	39
		%	7.7	-	59.0	20.5	12.8	-	100
鉱	業	人 数	-	-	6	2	-	-	8
		%	-	-	75.0	25.0	-	-	100
工	業	人 数	35	3	75	27	32	2	174
		%	20.1	1.7	43.1	15.5	18.4	1.2	100
商	業	人 数	21	1	110	23	32	4	191
		%	11.0	0.5	57.6	12.0	16.8	2.1	100
公	務	人 数	6	3	103	19	25	2	158
		%	3.8	1.9	65.2	12.0	15.8	1.3	100
計			127	11	609	122	219	23	1,111

問2 「代議士選挙の基準」産業別選択肢分布状況（全調査対象女子）

産業別		選択肢番号	1	2	3	4	5	6	計
農	業	人 数	6	35	333	85	10	70	539
		%	1.1	6.5	61.8	15.8	1.8	13.0	100
漁	業	人 数	1	1	29	3	-	5	39
		%	2.6	2.6	74.3	7.7	-	12.8	100
鉱	業	人 数	1	3	1	-	-	3	8
		%	12.5	37.5	12.5	-	-	37.5	100
工	業	人 数	3	11	95	41	2	34	186
		%	1.6	5.9	51.1	22.0	1.1	18.3	100
商	業	人 数	3	29	92	37	1	32	194
		%	1.5	15.0	47.4	19.1	0.5	16.5	100
公	務	人 数	-	27	62	30	1	40	160
		%	-	16.9	38.8	18.7	0.6	25.0	100
計			14	106	612	196	14	184	1,126